

除草2-1. 麦類除草剤

HRAC コード	成分名	商品名	多年生雑草	一年生雑草	一年生雑草（イネ科を除く）	一年生雑草（イネ科を除く）	一年生広葉雑草	スズメノテツボウ	県推奨使用時期	備 考
3	ペンディメタリン	ゴーゴーサン乳剤(普)		○					は種後出芽前(雑草発生前)	①小麦については小麦除草剤の項参照 ②過湿条件では出芽抑制などが発生しやすいので使用しない。 ③汎用除草剤の項参照
3	ペンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤F(普)		○					は種後出芽前(雑草発生前)	①過湿条件では出芽抑制などが発生しやすいので使用しない。 ②覆土は2～3cm以上とする。 ③重複散布は葉害発生を招く。 ④水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用しない。 汎用除草剤の項参照
3	トリフルラリン	トレファノサイド乳剤(普)			○				は種後出芽前～3葉期	①砕土、整地はていねいにする。 ②葉害を生じやすいので、覆土は必ず3cm以上とし鎮圧する。 ③土壌が過湿の場合は使用しない。 ④大麦では、砂壌土での使用を避ける。 汎用除草剤の項参照
					○				生育期(雑草発生前)(但し、収穫45日前まで)	
3	トリフルラリン	トレファノサイド粒剤2.5(普)			○				は種後出芽前～3葉期	
					○				生育期雑草発生前(但し、収穫45日前まで)	
6	ペンタゾンナトリウム塩	バサグラン液剤(ナトリウム塩)(普)				○			生育期(但し、収穫90日前まで)	麦類(小麦を除く)で登録。小麦については、小麦除草剤の項参照のこと。
6	アイオキシニル	アクチノールB乳剤(普)					○		穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	①イネ科雑草(スズメノテツボウなど)には効果はない。 ②降雨直前の散布を避ける。 ③展着剤は使用しない。 ④麦類では高用量で使用するとう葉枯れが発生する場合があります、150ml/10a前後の低用量で効果が望ましい。 ⑤カラスノエンドウは2～3葉期までに散布する。
9	グリホサートイソプロピルアミン塩	クサクリーン液剤(普) マイター液剤(普) 草枯らしMIC(普)		○					は種後出芽前(雑草生育期)	
9	グリホサートカリウム塩	ラウンドアップマックスロード(普)		○					耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	散布時の飛散に注意すること。
			○ (イネ科)	○						
				○					は種後出芽前(雑草生育期)	
			○ (イネ科)	○						
				○					収穫前日まで(雑草生育期)	①ほ場内の周縁部に使用する。 ②散布時の飛散に注意すること。
15	プロスルホカルブ	ボクサー(普)		○					秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)	麦類(小麦、大麦を除く)で登録あり。小麦、大麦については小麦除草剤、大麦除草剤の項参照。 注意事項は小麦除草剤の項参照。
23	IPC	クロロIPC(普)		○					は種直後または2～3葉期	①覆土は3～4cmとする。催芽まきには散布しない。 ②晩播で越冬までに麦が5葉に達する見込みのない場合散布しない。 ③適用雑草は、スズメノテツボウ、スズメノカタビラ等イネ科冬雑草、ハコベ、ミナソマ、タネツケバナ、ミチヤナギ、タデ類等 ④使用にあたっては播種または植付直後か、中耕施肥直後などの雑草発芽前後、または稚幼期に土壌処理とする。
5 15	プロメリン・ベンチオカーブ	サターンバアロ乳剤(普)		○					は種直後～麦出芽前	①早めに散布し、麦出芽後は絶対に使用しない。 ②極端に土壌が乾燥している場合は効果が劣る。 ③ノミノフスマ、トゲミノキツネノボタンには効果が劣る。
22 22	ジクワット・パラコート	ブリグロックスL(毒)		○					は種前又は播種後出芽前	